広告企画・制作　朝日新聞社

わかるわかる 中学受験

～女子学院中学校～

〈対話〉を重視し、一人ひとりの存在を大切にする教育

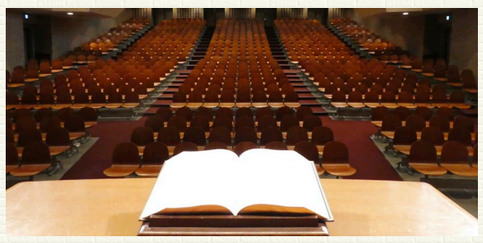
私学の想いに触れながら、中学受験、私学進学の意義や価値、豊かさを紐解いていく『わかるわかる中学受験』シリーズ。第2回は〈対話〉にフォーカスし、女子学院を訪ねました。女子学院は、150年を超える歴史を持つプロテスタント系ミッションスクール。生徒一人ひとりの個性と主体性を大切にしています。制服もなく、校則もほとんどありません。キリスト教を基盤とした教育の中で、仲間との〈話し合い〉を通して自分の生き方を考えます。そんな生徒たちのあり方を根底で支えているものとは何なのか、お話を伺いました。

JG 中高6年間の〈対話〉を通して、多様な他者と関わり、自分を見つける。

キリスト教精神を基盤にした教育

女子学院では、礼拝や、聖書の授業など、キリスト教精神に接する機会が多くあります。長い歴史を通して、毎朝15分の礼拝を欠かすことなく続けています。聖書の話を聴き、自己の内面と照らして、自分はどのようにしたいかを一人ひとりが考えます。自由な校風はこのような日々から培われていくのです。

HR（ホームルーム）礼拝では、生徒自身が話す側になる場面があります。入学直後のHR礼拝では、生徒たちは一生懸命考えてはいるものの、どこか「こう言えば褒められる」「これが正解だろう」と周囲を意識した発言が多くみられます。しかし、高校生くらいになると、聖書の同じ箇所を取りあげていても、一人ひとり自分なりの視点を見出しながら話をします。そこには、成長と多様性が見られます。6年間を通して、自分の経験や考えを自分自身の言葉で語れるようになるのです。



▲聖書と講堂

歴史と理念に支えられて

このように、150年以上の歴史の中で培ってきた伝統を大切にしつつも、時代の流れとともに変化する社会の動きに対応できる力を育んできました。ただし、社会の要請や流行にそのまま合わせるのではなく、どのような社会になっても、自分で考え、自分の価値観を大切にし、他者のために行動できる「太い幹」を育てていきます。

教科教育はその土台です。基礎・基本からきちんと知識を蓄え、考える力を養います。そのうえで、偏差値や順位にとらわれることなく、多様な価値観や個性に気づくことを大切にしています。キリスト教の教えを背景にして、「存在そのものが尊い」「一人ひとりには神から与えられた賜物がある」という考えが教育の根底にあるのです。女子学院ではさまざまな活動において、一人ひとりが「自分を見つける」経験をします。まだ自分にも見えていない個性や可能性、すなわち「賜物」を女子学院の生活の中で見つけ、それを磨き、社会でどう生かしていくかを考えます。そのためには、〈対話〉や多様な他者との関わりが重要なのです。

〈対話〉を中心にした学び

女子学院の学びは〈対話〉であふれています。授業はもとより、文化祭、体育祭、クラブ活動、生徒会……学校生活のあらゆる場面で生徒同士が話し合い、自分たちで答えを出したり、決めていったりします。そのとき、意見がまとまらないことも多々あります。一人ひとりが自分の考えを表明できる環境ならではの光景です。先生のあり方も、答えを渡すことはせず、相談された時にも「あなたはどうしますか?」と問い返します。思い通りにいかないことや解決に至らないことを経験し、その状況と共にあることで、異なる考えを持つ相手のことを理解し、その中で自分に何ができるかを考える力が育まれます。

話し合いの文化をつくる、女子学院ならではの学校行事もあります。中学2年生の「ごてんば教室」に始まり、高校3年生の「修養会」ではその集大成として、「愛とは何か」「生きる力」といった正解のないテーマについて語り合います。



▲高校3年生「修養会」の様子



▲中学2年生「ごてんば教室」の様子

生徒の主体性を大切にする女子学院。先生は生徒を信頼し、「任せれば生徒自身が最後には何とかする」という覚悟を持って見守ります。先生が想定した通りにできることを100点とするなら、生徒の発想や行動はときに120点、150点……にもなる。そんな想いで、生徒を一定の型にはめることなく、想定以上に伸びていく可能性を大切にしています。



▲女子学院 外観

日能研のまなざし

とことん生徒の主体性を大事にする姿勢を、保護者はどう受け止めているのでしょうか。学校は保護者にも、入学時から「6年間で子どもは変わります」「保護者が思い描いたレールを進むとは限りません」と伝え、できるだけ見守ることを求めています。もしご家庭で意見が分かれたときには「生徒の側に立つ」というのが学校のスタンスです。学校と家庭の双方が先回りして答えを与えるのではなく、生徒自身が考え、迷い、決めることを支えているのです。

院長の鵜﨑創先生は「生徒を見ていると、社会と逆行しているように見える」と話します。「通常は成長とともに社会に忖度するようになっていくが、女子学院の生徒たちはその逆で、入学時は周囲に忖度していた子たちがだんだん自分を出すようになっていく」と。それは、女子学院で学ぶことで「こう言えば、こうすれば○がもらえる」という世界から抜け出し、安心して自分をさらけ出し、自分の道を歩き始めるということを意味しているように思います。「逆行」と言っても、決して後戻りするわけではない。「その人自身」として社会で、未来で活躍する。他者のために自分の力を使う。社会の圧力に押し込まれず、その道を前へ、前へと力強く歩んでいけるようになる。――そんな女子学院の姿勢を私たち日能研は受け取っています。

女子学院中学校 紹介

所在地：東京都千代田区一番町
創　立：1870年 築地居留地に設立。1890年に校名を「女子学院」と改め現在地に校舎を新築。

女子学院は、1870年に設立されたA六番女学校を起点とする、日本最古のキリスト教系女子校の一つです。

NHK総合で9月まで放送されていた連続テレビ小説『風、薫る』の舞台は、前身の学校である「桜井女学校」にあった看護婦養成所がモチーフとなっています。

初代院長・矢嶋楫子の「あなた方は聖書を持っています。だから自分で自分を治めなさい」という精神を受け継いでいるため、明文化された校則はなく、生徒一人ひとりの個性と人格を尊重し、互いを認め合う自由な校風が根づいています。授業ではリベラルアーツを重視し、幅広い分野を学ぶとともに、自分の考えを記述し、発表し、生徒同士で活発に議論する機会が豊富です。体育祭や文化祭などの行事も生徒主体で企画・運営。聖書を軸に自ら考え、行動し、その責任を担う姿勢が、学校生活全体に息づいています。

日能研への入り口はこちら▶

日能研